



顧客事例一 台湾大手コンビニエンスストア Hi-Life (ハイライフ)

小売業におけるサイバーセキュリティの新たな課題: デジタル変革と個人情報漏洩の二重のプレッシャー

小売業界がデジタル改革を加速させる中、顧客の個人情報を守る重要性がこれまで以上に高まっている。台湾全土に店舗を展開する主要コンビニエンスストアチェーンで、業界シェア第3位である Hi-Life (ハイライフ、以下 Hi-Life) は、従来小売サービスの範囲にとどまらず、「Hi-Life VIP」アプリ、オンライン注文・受取システム、モバイル決済、電子インボイスのクラウド保存サービスなど、クラウドベースのサービス展開にも注力している。これにより、業務効率の向上と顧客ロイヤルティの強化、そして売上増加が実現されている。

しかし、デジタル化の進展は恩恵だけではなく、それに伴ったサイバーセキュリティ上のリスクも急速に高まっている。2023 年には、台湾の高級百貨店グループでの情報漏洩インシデントが発生し、約 90 万人の会員情報が流出し、企業イメージが損なわれる事件が発生した。このような状況を踏まえ、台湾政府は小売業界のサイバーセキュリティ管理に対する規制強化を進めている。2024 年、台湾経済部は「小売業における個人データファイルのセキュリティ維持管理規則」を改訂し、小売業者に対して個人情報保護計画の策定と、「説明する・文書にする・実行する」の実行を明確に義務付けた。

台湾経済部商業局は個人情報保護計画の実行に対して積極的な監査を行う方針を示している。また、「個人情報保護法」では、事業者が個人情報のセキュリティ維持計画を提示できない場合、最大 200 万元の罰金が科される可能性があり、さらに、期限内に是正がなされない場合や重大な違反があった場合は、罰金は最大 1,500 万元に引き上げられることもあるとしている。

このような背景から、サイバーセキュリティは小売業のデジタル改革における基盤と位置付けられている。600 万人の会員を擁する大型小売企業である Hi-Life は、セキュリティインシデントがブランドに対する信頼を損なうだけでなく、デジタル改革全体の経済的効果にも悪影響を及ぼすことを深く理解している。顧客の権利を守り、持続可能な成長を実現するためには、強固なセキュリティ体制が不可欠といえるのだ。

Hi-Life は CyCraft と連携し、小売業におけるサイバー防衛体制を構築

Hi-Life は、台湾を代表する小売業者として安定した売上成長を実現するには、「個人情報保護法」を遵守することが大前提であると考え、顧客データの保護を最優先事項と位置付けている。包括的なサイバーセキュリティ体制を構築するため、Hi-Life は複数の国際的な大手セキュリティベンダー (C社、T社、S社など) と CyCraft のソリューションを比較・評価した。

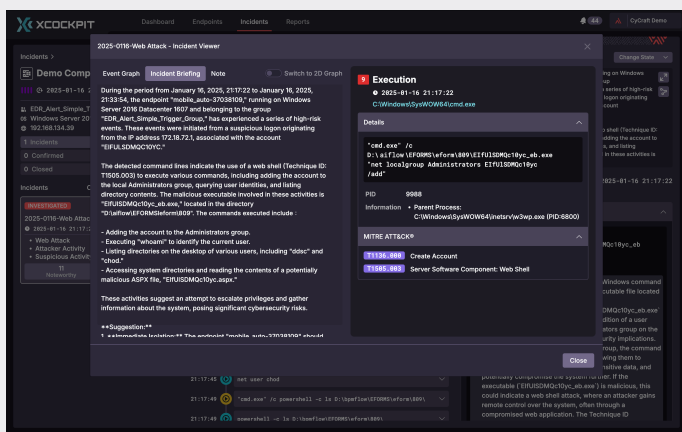
比較・評価の結果、Hi-Life は各社の基本機能には大きな差がなかったものの、CyCraft のソリューションは、専任の SOC (セキュリティ運用) チームがなくても、既存の IT チームでセキュリティ業務を遂行できる点もあり、Hi-Life の現場環境に最も適合していると判断した。加えて、PoV (Proof of Value) 期間中には、CyCraft のソリューションが小売業特有の脅威を迅速に検出し、以下のような脅威のインシデント対応をサポートしたことも高評価のポイントとなった。

- 1 Webshell を通じて悪意のあるコマンドが実行され、サーバへリモート操作される脅威
- 2 SQL インジェクションと考えられる攻撃により、Web バックエンドの脆弱性が突かれ、機密データの窃取や改ざんが発生する脅威

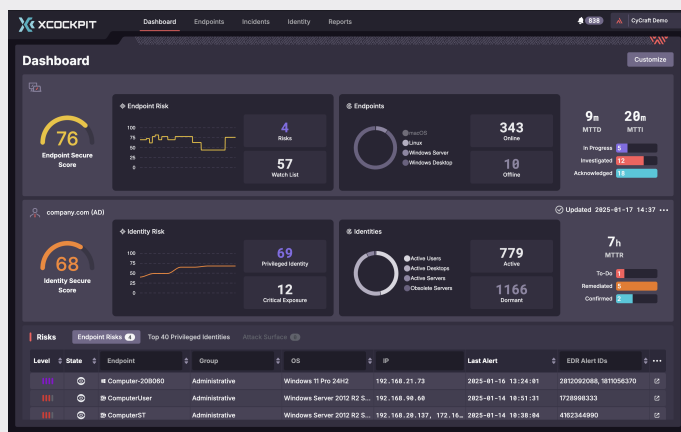
これらは小売業界で頻発する典型的な攻撃行為であり、近年その件数は増加傾向にある。CyCraft はこれらの攻撃を的確に検出・遮断し、その専門性を実証した。結果として、Hi-Life は CyCraft をサイバーセキュリティパートナーとして選定した。

AI 技術による支援：CyCraft、次世代のセキュリティ対策をリード

CyCraft は、ChatGPT に類似した機能を備えた独自の大規模言語モデルを開発し、複雑なインシデント分析を AI で効率化している。これにより、専門知識のないスタッフでも重要なインシデントの内容を理解でき、現場とのコミュニケーションコストを削減し、対応スピードを向上させると同時に、IT チームがより価値の高い業務に集中できるよう支援している。



X Cockpit は、インシデントに関する要点を自動で要約し、企業のインシデント状況把握、適切な対応措置の決定を支援



X Cockpit は、ID 管理とエンドポイント管理を統合し、直感的かつ高い可読性を備えた「ダッシュボード」を提供

さらに、台湾発のセキュリティベンダーである CyCraft は、独自の AI 技術を活用して地政学的リスクを反映した攻撃パターンを深く解析している。CyCraft の統合管理プラットフォーム「X Cockpit」は、3 つの主要機能を統合し、操作の簡略化と学習負担の軽減、そして管理効率の向上を実現している。

Hi-Life のセキュリティ部門責任者である葉馥蘭氏は次のように述べている：「AI 技術は、セキュリティ脅威の特定と分析を加速させるだけでなく、小売業におけるデジタル変革の推進にも貢献しています。CyCraft AI の活用により、異常を即座に把握・排除でき、セキュリティチームの負担を軽減することで、より多くのリソースをその他の重要業務へ開放することが可能になりました。」

このような技術活用を通じて、Hi-Life はデジタル変革を加速させながらも、安定した事業運営と顧客からの信頼確保を両立し、小売業におけるサイバーセキュリティ管理の模範となっている。

顧客課題

課題 1

台湾の小売業が直面する頻発かつ深刻化する認証攻撃

デジタル化の進展に伴い、小売業は攻撃者にとって主要な攻撃対象の一つとなっており、特に個人情報の窃取や悪用は、消費者および企業の双方に重大な脅威をもたらしている。

課題 2

サイバーセキュリティ人材の不足と、明確かつ実行しやすい対応指針の必要性

複雑かつ変化の激しいサイバー脅威に直面する中で、専門人材の不足により効果的な対応が一層困難になっている。そのため、明確なインシデント対応方針を示すことがサイバーセキュリティ管理のカギとなっている。

課題 3

プラットフォームを横断する管理効率の低下と、操作に伴う学習負担

セキュリティ管理の効率を高めるためには、企業は統合的な管理プラットフォームの導入が不可欠である。プラットフォームを統一し、かつそれがシンプルな操作画面であることは、担当者の管理・学習負担を軽減することに繋がる。

XCockpit サイバー脅威監視・リスク管理自動化プラットフォーム (XCockpit Endpoint + XCockpit IASM)



CyCraft 製品利用のメリット

AI 駆動型ソリューションで、正確かつリアルタイムな検知と分析を実現

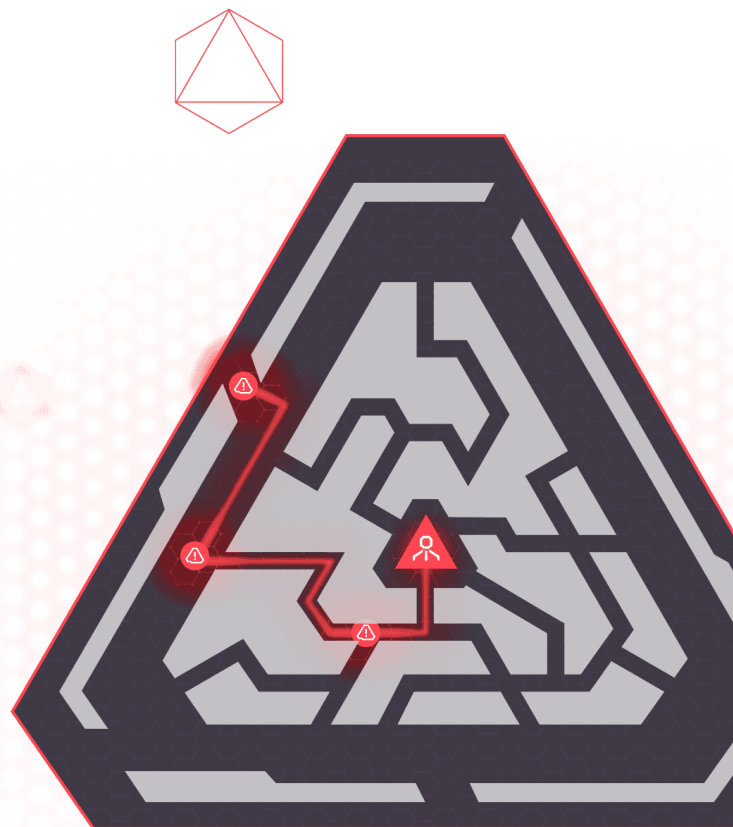
CyCraft は独自に大規模言語モデル (LLM) を開発し、インシデントの自動分析と脅威の迅速な判断を可能にすることで、チームの負担を軽減し、ビジネスの成長を支援。

統合プラットフォームによる効率的な管理

「XCockpit」は ID 管理とエンドポイント管理を統合し、組織のセキュリティ状況をあらゆる方向から把握可能。管理プロセスを簡素化しつつもその効率を大幅に向上させる事が可能。

専任のセキュリティチームがなくても、安全を守る体制を実現

CyCraft のソリューションは、企業の既存 IT チームに高度なセキュリティ対応能力を提供し、専門家不足でも迅速な対応が可能。AI の活用により、企業全体のセキュリティ防御力の強化を実現。



CyCraft について

CyCraft (サイクラフト) は、AI による自動化技術を専門とするサイバーセキュリティ企業です。サイバー脅威監視・リスク管理自動化プラットフォーム「XCockpit」を開発し、一体化サイバーセキュリティ防御を提供しています。

また、国際的なトップ研究機関である Gartner、IDC、Frost & Sullivan などから複数の項目において評価を受けている他、国内外の著名な賞をいくつも受賞しています。

